

診療科目 ● 循環器・腎臓内科学

● 循環器・腎臓内科学教室 B. 腎臓・高血圧内科専攻コース

プログラム責任者：梅村 敏

附属病院	
主任教授	梅村 敏（腎臓・高血圧内科部長）
准教授	戸谷 義幸（血液浄化センター長）、田村 功一
診療講師	谷津 圭介
助教	涌井 広道、山内 淳司、吉田 伸一郎
附属市民総合医療センター	
診療教授	安田 元（腎臓・高血圧内科部長）
准教授	平和 伸仁（血液浄化療法部長・臨床教育研修センター長）
助教	坂 早苗、山本 有一郎

本プログラムの特徴

腎臓高血圧内科シニアレジデントコースでは、内科臨床医として必要な幅広い一般内科診療の知識、技術の習得を軸に、更に横浜市立大学循環器腎臓病学教室の腎臓高血圧グループが手がける3専門領域（腎臓疾患、高血圧疾患、血液浄化療法）全般に亘ってバランスよく研修を行い、腎臓内科専門医、高血圧専門医、透析専門医、アフエレス（血漿交換療法）専門医となれるプログラムを提供します。また、内科学会認定総合内科専門医として幅広い内科学の知識と技術の習得を目指します。特に血液浄化療法（透析を含む）や高血圧疾患に関しては、それぞれ泌尿器科や循環器内科が手がけている大学や病院も多く、これら3専門領域にわたり広く研修できることが、当プログラムの特徴です。さらに、腎臓と関連した糖尿病や膠原病分野、透析と関連した内臓手術などの外科的分野、高血圧と関連した内分泌分野や循環器分野など、診療の守備範囲が広く、医師として内科医としての総合力を身につけることができます。研修病院は附属病院、附属市民総合医療センター（センター病院）の両大学病院を中心として、横浜南共済病院、藤沢市民病院、済生会横浜市南部病院、横須賀市民病院などの多くの協力病院から選定することが可能です。期間中、同一病院を選定しなければならない決まりはなく、各レジデントのニーズと経験に合わせて相談していくことになります。3年間の研修中には認定内科医の資格を取得し、必要な研修期間を終了した後、上記専門医資格を取得していただきます。大学病院の特徴としては、臨床研究を中心とした研究面にも力を注いでおり、国内の主要学会を中心に、国際学会で発表する機会もあります。また、研修中でも大学院への進学（一般病院に勤務しながら進学する社会人枠もあり）や国内外への留学などの希望には随時相談に応じており、柔軟性の高い研修カリキュラム実現が可能です。



目 標

一般内科医としての幅広い臨床能力を身につけると共に、腎臓高血圧内科医として、腎臓、高血圧、血液浄化療法の各専門分野の検査手技、治療法をバランスよく習得します。全人的、患者中心の視野に立ち、腎臓や高血圧のみならず患者の問題点を全て見つけ出し考察し、問題点の抽出能力を高めるとともに、患者さんにとって最適な治療方針を決定し、実行できることが目標です。

目標とする学会認定専門資格

日本内科学会認定内科医・総合内科専門医	日本透析医学会専門医
日本腎臓学会専門医	日本アフエレス（血漿交換療法）学会専門医
日本高血圧学会専門医	

主な協力病院

横浜南共済病院、藤沢市民病院、済生会横浜市南部病院、横須賀市民病院、横浜保土ヶ谷中央病院、国立横浜医療センター、大森赤十字病院、秦野赤十字病院、茅ヶ崎市立病院、大和市長病院、国際親善病院、横浜栄共済病院、長津田厚生病院、横浜中央病院、聖隷横浜病院、その他多数の協力透析クリニック

診療科のホームページ URL	担当者・連絡先
<a href="http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~ninai/">http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~ninai/</a>	附属病院：戸谷 義幸 センター病院：平和 伸仁

診療科の実績

附属病院腎臓高血圧内科；2014年実績

腎生検 24件、血液透析導入 65件、腹膜透析導入 3件、外科手術（内シャント手術など）85件、内シャントPTA 33件、血液透析療法 約4,400件、血液浄化療法（血液吸着、血漿吸着、血漿交換、血液ろ過など）約500件

市民総合医療センター腎臓高血圧内科；2014年実績

腎生検 44件、血液透析導入 70件、腹膜透析導入 5件、外科手術（内シャント手術など）75件、血液透析療法 約3,200件（入院および外来）、血液浄化療法（血液吸着、血漿吸着、血漿交換など）700件

指導医から一言

〈附属病院〉

- 母体である病態制御内科学（循環器・腎臓内科学）教室（主任教授 梅村敏）は腎臓高血圧グループと循環器グループの2グループによって構成されています。大学病院及び協力病院ともこれら2つのグループは協力しあっており、腎臓・高血圧内科のみではなく心腎連関を含め、視野の広い総合的内科学を学ぶ機会があります。
- 2つの大学病院と協力病院とが一体となってローテートを決め、このローテートの中で各病院の特徴を活かしたトレーニングがなされ、より広い視野に立てる腎臓高血圧内科専門医養成をめざしています。
- 各専門分野での手技や専門知識の修得はもちろん、先進医療から慢性疾患の生活指導までを幅広く修得して優れた医師となりうる研修体制です。
- 附属病院（腎臓・高血圧内科、血液浄化センター）と市民総合医療センター（腎臓・高血圧内科、血液浄化療法部）は協力し合い、一体となったトレーニング体制、研究体制をとっています。
- 一個所の病院に比較的多くの医師を集中する拠点病院方式や、出産および子育てなどでフルタイムの勤務が困難な医師に対するワークシェアリングシステム、経済的に医師を補助する外勤紹介システムを有し、グループメンバーのニーズやQOLも考慮した研修体制をとっています。
- 大学病院では臨床だけではなく研究も重要視しており、後期研修中の大学院入学や、大学病院に勤務しながらの臨床研究など、多彩な研究環境を用意しています。
- 当教室のホームページでは腎臓高血圧グループおよび循環器グループについて、大学での診療・教育・研究や協力病院の特徴が見られるようになっています。さらに、大学院や留学等も視野に入れた各グループの専門医養成のシステムが述べられていますので参考にして下さい。

〈センター病院〉

センター病院の腎臓・高血圧内科は、血液浄化療法部とともに腎臓病、高血圧、血液浄化療法（透析、アフエレス、急性浄化）を行っています。日本内科学会、日本腎臓学会、日本高血圧学会、日本透析医学会、日本アフエレス学会、日本急性血液浄化学会等の教育施設として、多くの専門医を輩出しています。

また、後期研修中に臨床研究の大学院として研究を始める事も可能です。当院の特徴としては、横浜市内で最大の病床数を有する大学病院として、関連施設を含めた研修施設中で、もっとも腎生検や手術症例、さらに高血圧の診断のためのカテーテル検査が多いことです。また、白血球除去療法などでは、全国有数の症例を経験することができます。

腎臓・高血圧内科を研修しつつ、さまざまな診療科に関わる疾患を経験出来ますので、内科の専門医を取得する際にも有利に働きます。よって、専門医養成プログラムとして当院で後期研修を行いますと、さまざまな手技を経験する事ができます。また、学会発表や臨床データをまとめるなど、希望に応じてさまざまな活躍できるフィールドがそろっています。皆様の積極的なプログラムへの参加をお待ちしております。

シニアレジデントからのメッセージ

横浜市立大学附属病院腎臓・高血圧内科シニアレジデント2年目の松本賛良と申します。当教室の関連病院は、神奈川県内の日本腎臓学会研修認定施設、日本透析医学会研修認定施設に多数あり、シニアレジデントは基本的に各学年1人ずつ派遣されています。私の同期は10人おり、みな初期研修病院も出身大学もバラバラですがそれぞれの経験を生かして各病院で充実した後期研修を送っているようです。

私のいる附属病院では、CKDの管理はもちろん、腎炎から水電解質異常、悪性高血圧症、二次性高血圧症など幅広い症例を扱っています。また、LDLアフエレスやLCAP、GCAPなどの特殊な血液浄化を他科と連携して行うこともあります。腎代替療法も血液透析だけでなく腹膜透析の導入、管理も行っています。腎生検やシャント手術などの手技は積極的に携わることができ、昨年はシャント手術の執刀を15件以上させていただきました。

シニアレジデントの仕事は、入院患者の主治医、救急当番、外来、透析当番となっていますが、入院患者にはチーム主治医制となっているのでしっかりとバックアップ体制がとられ、EBMに基づいた医療を勉強することができています。

認定医や専門医に向けてのキャリアにつながる症例報告を研究会や腎臓学会などで発表する機会もあります。大学病院では内科全般の症例を経験する機会が市中に比べ低いと思われませんが、私の場合、内科認定医に必要な症例は十分に経験することが可能でした。

腎臓内科に決めている方も進路に迷われている方も、ぜひ一度横浜市立大学の腎臓高血圧内科に見学いらしてください。世話好きなスタッフ一同が、心よりお待ちしております！  
(シニアレジデント2年 松本 賛良)